

## 学内グラント 報告書

## 平成24年度 学内グラント終了後報告書

## 心因性味覚障害および口腔乾燥症における分子基盤

研究代表者 福島 洋介 (大学病院 歯科・口腔外科)

心因性による味覚障害や口腔乾燥症などの心因性口腔疾患に罹患している患者は多いが、それらの疾患の病態について分子レベルでの解析は行われておらず、有効な治療は未だない。神経系においてCorticotropin-Releasing Hormone (CRH) の制御異常はCRH pathwayの破綻を来とし、精神疾患の病態形成と深く関係していることが知られているが、近年、末梢局所で発現しているCRH pathwayの破綻が聴覚障害や皮膚炎に関与することが報告された。そこで我々は口腔においてもCRH pathwayが存在し、その破綻がストレス性味覚障害および口腔乾燥症の病態に関連するとの仮説を立てた。本研究の目的は口腔におけるCRH pathwayの存在を確認し、さらに口腔におけるCRH pathwayと味覚異常および口腔乾燥症の関係を明らかにすることである。まずわれわれは、ACTH受容体KOマウスとその野生型同腹子の舌組織のmRNAの発現を比較した。ACTH受容体KOマウスではACTH受容体の発現が著明に減少していた(図)。今後はIn situ hybridization法と

免疫組織学的手法などを用いて他の関連遺伝子を含め検索を行い、得られた結果について年内の学会発表を予定している。

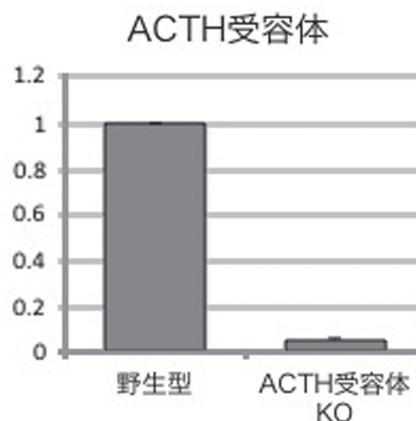


図. 舌におけるACTH受容体のmRNAレベル.